

鳥取砂丘コナン空港と周辺観光地等を結ぶ二次交通改善活動プラットフォーム (共創モデル実証運行事業)の結果について

令和7年1月23日
交通政策課

国庫補助事業で採択(国土交通省総合政策局所管、補助率2/3、実施主体:鳥取空港ビル(株))となった『共創・MaaS実証プロジェクト』について、ヒトとモノを運ぶ『共創モデル実証運行事業』が民間主導で実施されたので、その結果について報告します。

1 実施結果

- (1) 目的: 鳥取砂丘コナン空港と鳥取港(以下「ツインポート」)間の移動手段を確保しつつ、港で販売している特産品を空港に運搬する方策とセットで取り組むことで、交通事業の収支改善、持続可能な地域交通の確保、及び地域住民の利用促進等を目指すもの。
- (2) 日時: 令和6年11月2日(土)～令和6年12月15日(日)のうち金・土・日・祝の20日間
物販…午前10時から午後6時まで
バス運行…午前9時から午後5時まで(30分間隔、13往復/日)
- (3) 場所: 物販…鳥取砂丘コナン空港 1階ロビー(ANAカウンター付近)
バス運行…鳥取砂丘コナン空港～わたたいな・かろいち(鳥取港)
- (4) 実施主体: 鳥取砂丘コナン空港と周辺観光地等を結ぶ二次交通改善活動プラットフォーム(以下「本プラットフォーム」)
【航空関連】全日本空輸(株)【交通事業者】日ノ丸自動車(株)
【事務局・調査会社】鳥取空港ビル(株)、八千代エンジニアリング(株)ほか
- (5) 結果概要: 売上金額…約61万円(1日平均3万円超)
乗車人数…458人(1日平均23人)→シャトルバスにて商品の運搬を実施。
販売傾向…梨が1番人気であった(売り上げの約6割)。
牛骨ラーメン、らっきょう、板わかめ、かに関連商品(かにみそ、かにスパゲッティ等)などの特産品も需要があった。
- (6) 観客に対する反応: スタッフの声
 - ・今回、9月実施のプレ実証実験では20世紀梨、11月、12月実施の実証実験では、王秋梨からあたご梨を取り扱いました。このように、多様な品種を空港でお見せするというのも、アピールになるのではないかと思います。
 - ・(あたご梨は)東京ではまず目にしない大きさで、実物を見て驚きました。あたご梨は提供数が少なかったが、やはりインパクトは大きく2週とも完売でした。お客さんの声
 - ・買ったかった梨が買えて大満足です。
 - ・東京はシーズンが終わってしまっていたので梨が購入できて嬉しかった。
 - ・なしっこ館(20世紀梨記念館)で王秋が美味しかったので、どこかで買えないかな～と思っていたら空港でばったり!他よりもお手頃価格で、帰って食べてみてもやっぱり美味しかったので、家族で取り合いになりました!
 - ・鳥取の梨が買えてよかった。
- (7) 成果: 得たもの
 - ・空港での青果等の販売は、特産品を中心に一定の需要があることが確認できた。
 - ・バス運行は一定の需要があったものの、航空機利用者、一般来場者のニーズを引き続き伺いながら今後の対策を検討する必要がある。改善点
 - ・物販はテナントとのすみ分けによって、テナントがない1階ロビーで実施したことから人通りが少なかった。今後実施する場合は、すべての航空機利用者を通る2階手荷物検査場付近などでの販売を検討する必要がある。
 - ・バス運行は航空機利用者への周知が難しく、利用が伸び悩んだ。

【物販の様子】



【商品運搬(シャトルバス)】



【シャトルバス乗り場】



かろいち横



2 今後の予定

今回の実証実験で、空港での特産品の販売に一定程度の需要があることを確認できた。特に、9月実施のプレ実証実験と同様に梨、牛骨ラーメン、らっきょう、板わかめ、かに関連商品(かにみそ、かにスパゲッティ等)について特に需要があり、航空機利用者が飛行機に乗る直前に購入できることは強みである。これについては、わたたいな及びかろいちの意向を踏まえつつ、今後の対応を検討する。

ツインポート間の移動については、別途実施している人流分析の結果を踏まえ、本プラットフォームにて既存路線バス等の可能性を議論していく予定である。

引き続き、「安全・安心な空港運営」及び「空港を拠点としたにぎわいの創出」を両輪として、本県も関係者と共に取り組んでいく。